

# 令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

## 中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

### 活動テーマ

『地域のめぐみをつないで育てる半田市共創プロジェクト』

活動団体の活動地域：愛知県半田市

活動団体名：半田市地域循環共生圏推進協議会

中間支援主体名：半田市（環境課）

# 中間支援主体としての獲得目標と達成状況

## ■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

- ・ 活動団体とステークホルダーをつなぐ橋渡しとしての役割
- ・ 他の自治体にとってのモデルケースとなるような仕組みづくり

## ■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

- ・ 関係づくりにおいては、市を通してだけでなく自らの行動・働きにより仲間や共感者を増やしていく必要がある。参加しやすい仕組みづくりのアドバイスをはじめ、ステークホルダーそれぞれの立場からの本活動の見え方を整理した。結果的に、既存の繋がりを起点とした新たなステークホルダーの巻き込みなど、活動団体独自の働きにより、活動の輪が広がりつつある。
- ・ 活動においては農家の理解・共感が不可欠であり、Win-Winの関係構築を目指している。農業は閉鎖的に見える業界であり、突破口が必要と考えた。既に協力いただいている農家がいるため、活動の進捗を見守りつつも関係者へのヒアリングを行い、感触を確かめながら進めたことで、バイオ肥料の活用試験を通して市内農家との関係性が向上し、今後の取組の新たな展開に期待が持てるような体制構築を実現することができた。活動団体側の理論だけでなく、受け手側のニーズや思いなどを汲み取ったことが、関係性構築に大きく寄与したと考えている。

# 中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	○	活動の説得力を高め、仲間を巻き込むため	◎	対話の中で活動を整理し、言語化できた
	意味づける	◎	行政との関わりを強くするため	◎	行政計画との関連付けを行った
	癒しとなる				
	見通しをつける	○	目指す方向を定め、進みやすくするため	▲	共通理解のもと高い熱量で進められている
プロセス支援	話を聞く				
	場を開く	○	新たな繋がりにより可能性を広げるため	▲	活動団体独自で関係性を構築できている
	喝を入れる				
	現在地を確認する	○	思い描いた方向に進んでいるか確認するため	○	定期的に現在地を確認し、方向性を共有した
資源連結	新しい人を入れる				
	事例を紹介する				
	引き出す	○	関係者のポテンシャルを活かすため	◎	期待以上の熱量で活動に参画している
	拡散する	◎	仲間を増やし、活動を活性化させるため	○	今後、若者の力を借りて強化していく
問題解決提示	文字や図に落とす				
	問いを立てる				
	会議を進行する				
	落としどころを探る	◎	成果としてわかりやすく共有するため	○	まずはやれることをやってみる
その他	※必要に応じて追加				

# 今後の中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

地域の課題を地域で解決するためには、制度や仕組みの整備、熱量の高いステークホルダーの存在、持続可能な体制づくりなど、様々な要素が必要です。その中でも行政の理解や活動への関わりは、活動を継続させる上で重要度の高い要素であるものの、全国で活動する団体の多くが巻き込みに苦戦しています。本市の活動では、行政が中間支援を担っていることから、行政目線で見たと時に関わりやすい活動の形を検討・整理し、他自治体における地域循環共生圏づくりにも貢献できる仕組みの構築を目指します。これを進めることが、結果として人事異動や組織改編といった体制変更にも柔軟に対応できる仕組みづくりを実現し、行政組織として地域づくりに貢献し続けることに繋がると考えています。

## ■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェント機能での分類
他地域・他自治体でも行政を巻き込んだ地域循環共生圏づくりが進められている	・行政側から見た共生圏づくりの課題や、行政を巻き込むためのアドバイスを言語化し、他地域へ発信する	・物事を整理する ・意味づける
若者からのメッセージの発信により、大人たちの行動変容を促す	・職業高校の生徒を中心に本活動への巻き込みを進め、それぞれの専門性を活かした啓発方法を検討し、実施する	・新しい人を入れる ・拡散する ・文字や図に落とす

## ■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

活動のPR方法を検討する上で、「若者から大人へ」をテーマの一つに置きたいと考えています。職業高校の生徒のアイデアを取り入れ進める予定ですが、教員だけでなく、その道（マーケティング・広告・農業など）で実際に活躍するプロからの助言を取り入れ、高校生たちのアイデアをブラッシュアップすることで、生徒たちの学びにも繋がりたいと思います。